

(イ) 波浪条件

工事中の波浪条件は、「第6章 6.5.2.2予測」で設定した将来予測計算における夏季の波浪条件を使用した。

1) 計算パラメーター

水の濁りの予測計算に用いたパラメーターは、表-6.5.1.2(10)に示すとおり設定した。

表-6.5.1.2(10) 水の濁りの予測計算に用いたパラメーター

項目	採用値
水平渦拡散係数	$1.0 \times 10^5 \text{cm}^2/\text{s}$
鉛直渦拡散係数	流れの計算で求まる値
タイムステップ	緩衝領域(540m格子)：60秒 大領域(180m格子)：20秒 中領域(60m格子)：10秒 小領域(20m格子)：5秒
計算時間	計算時間は定常状態となるまでとし、最終1日間の日平均値と日最大濃度をもって検討を行った。 負荷量は、計算時間中に連続的に与えた。

り) 機械処理水による負荷量

機械処理設備は、濁水の処理濃度が25mg/L以下、処理能力が360m³/h規模として想定した。機械処理水による負荷量は、日当たりの負荷が最大となることを想定し、機械処理が24時間連続稼働しているものとして、216kg/日とした。機械処理水の負荷量の流入点については、機械処理による処理水は轟川へ排水されるが、河川では機械処理水に含まれるシルト及び粘土成分は、河床に堆積せず流下すると考えられることから、機械処理水がそのまま海域へ流入したのものとして、轟川河口とした。

河川（轟川、通路川）と排水路のSSの流入濃度は、機械処理設備からの処理水の寄与について検討を行うことから0kg/日とした。